

卒業認定・学位授与の方針 DP (ディプロマ・ポリシー)

◆人材育成の目的・学位授与の方針

教育学部は、学士課程教育において、「広い視野と深い教養をもった豊かな人間性を基盤とした教員及び教育関係職員の養成のため、必要な基礎的・専門的な知識・技術を修得させ、併せて主体的な課題探究能力を育成する」ことを目的としています。

教育学部では、このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、教養教育では幅広い分野の知識、各課程・専攻では分野の特性に応じた知識・能力を身に付けるとともに、所定の単位を修得し、以下の資質・能力を身につけた者に、学士の学位を授与します。

- ・ 発達途上にある子どもたちを専門的立場から理解し、実践的に指導することができる。
- ・ 現代的教育課題に関する専門的知識をもとに、課題を分析し解決することができる。
- ・ 教育上の諸問題を広い視野で多面的に捉え、協働しながら解決していくためのコミュニケーションができる。

教育課程編成・実施の方針 CP (カリキュラム・ポリシー)

①教育課程編成の方針

教育学部は、学士課程教育において、「広い視野と深い教養を持った豊かな人間性を基盤とした教員及び教育関係職員の養成のため、必要な基礎的・専門的な知識・技術を修得させ、併せて主体的な課題探究能力を育成すること」を目的としています。このことを踏まえ、各教育課程では、以下の方針に基づき教育カリキュラムを編成しています。

- ・ 教員等に求められる資質能力を高めるために、教養教育では豊かな人間性の基盤となる広い視野と深い教養を身に付け、教職に関する科目、教科に関する科目等から総合的に学修することができる。
- ・ 各課程・専攻・専修ごとに、専門的内容について体系的、段階的、個別的にバランスよく学修することができる。

②教育課程における教育・学習方法に関する方針

教育課程においては、各科目の目的及び学修目標に応じ、講義・演習・実習等の様々な方法・形態により授業を実施し、学生が主体的・能動的に学び、人材育成の目的及び学位授与の方針に相応しい資質・能力を身につけることができるよう工夫します。

③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA 及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の評価は、各科目の目的及び学修目標を踏まえ、科目毎にシラバスに示す評価方法・基準により、筆記試験、レポート、講義・演習・実習等への積極的な参加等により行うものとし、公正かつ的確に実施します。

入学者受入れの方針 AP（アドミッション・ポリシー）

◆求める学生像

教育学部は、人材育成の目的及び学位授与の方針を踏まえ、次のような人を広く求めます。

1. 教員等を目指す強い意志と情熱を持ち、教育に関わる諸問題解決に真摯で意欲的な取り組みができる人
2. 自ら学ぼうとする学習意欲があり、高等学校までの教科（例えば国語・数学・外国語等）の基礎的知識・技能を活用して問題を解決できる能力を持つ人
3. 子どもの教育と社会的活動に幅広い興味と関心を有する人
4. 必要なコミュニケーション能力と協調性を備えている人
5. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を有する人

◆入学者選抜の基本方針

教育学部では、大学入学までに身につけておくことが期待される資質・能力として、子どもの教育に対する幅広い関心と情熱、論理的思考力、コミュニケーション能力を重視しています。また、以上の学生を選抜するための基本方針として、多様な学生を評価できる入試を提供します。（詳細は、入学者選抜要項、学生募集要項を参照）

- ・一般選抜（全課程）では、大学入学共通テストを課すとともに、個別学力検査等で各課程・専攻に応じて、国語、数学、外国語、実技、面接等のうちから必要な科目を課し、高等学校までの教科の基礎的知識・技能と、論理的思考力・判断力・表現力等及び教職への意欲を主体として、評価・選抜を行います。なお、面接においては、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度についても評価します。
- ・学校推薦型選抜Ⅱ（小学校教員養成課程、中学校教員養成課程（理科、技術、家庭）、特別支援教育教員養成課程、養護教諭養成課程）では、大学入学共通テストを課し、高等学校までの教科の基礎的知識・技能を評価するとともに、調査書や推薦書等を参考にしながら、課程・専攻の特性を踏まえた面接等を実施し、論理的思考力・判断力・表現力等及び教職への意欲を主体として、評価・選抜を行います。なお、面接においては、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度についても評価します。

卒業認定・学位授与の方針 DP (ディプロマ・ポリシー)

◆人材育成の目的・学位授与の方針

教育学部は、学士課程教育において、「広い視野と深い教養をもった豊かな人間性を基盤とした教員及び教育関係職員の養成のため、必要な基礎的・専門的な知識・技術を修得させ、併せて主体的な課題探究能力を育成する」ことを目的としています。

小学校教員養成課程では、このことを踏まえ、以下に示す学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、教養教育では幅広い分野の知識、各課程・専攻では分野の特性に応じた知識・能力を身に付けるとともに、所定の単位を修得し、以下の資質・能力を身につけた者に、学士の学位を授与します。

- ・ 発達途上にある子どもたちを専門的立場から理解し、実践的に指導することができる。
- ・ 現代的教育課題に関する専門的知識をもとに、課題を分析し解決することができる。
- ・ 教育上の諸問題を広い視野で多面的に捉え、協働しながら解決していくコミュニケーションができる。

学修成果

豊かな教養

○ 小学校教員養成課程

- ・ 文化・社会に関する一般的な理解と関心を持っている。
- ・ 自然・生命に関する基本的な理解と広い視野を持っている。

○ 教育学専修

- ・ 教育学に関する一般的な理解と関心を持ち、教育的現実に関する深い関心と広い視野を持っている。さらに、教育に関する知識や理解を高めていく主体的な学習態度が備わっている。

○ 心理学専修

- ・ 教育・発達・臨床の3領域の心理学をまんべんなく履修して、社会・文化における人間の様々な営みについて理解するための心理学的知識や見方・考え方を身に付けている。また、講義、実験、演習をまんべんなく履修することで、自己学習能力が身に付いている。

確かな専門性

○ 小学校教員養成課程

- ・ 教職に関する基本的理論・概念について説明することができる。
- ・ 教科に関する基本的理論・概念について説明することができる。
- ・ 教員として必要な知識・技能を持つことができる。

○ 教育学専修

- ・ 教育学の理論・概念や方法論に関する基本的認識を獲得し、当該分野の情報・データを活用し、教育的現実の問題解決のために、その成果を応用できる。

○ 心理学専修

- ・ 3領域の心理学を講義、演習、実験を通じて学ぶことで、心理学の「理論・概念」「方法論」「データ分析」「応用、問題解決の技能」といった、心理学全般の専門的知識が身に付いている。

創造的な知性

○ 小学校教員養成課程

- ・ 教育に関する課題を見出し、解決方法を提案することができる。

○ 教育学専修

- ・ 教育学や教育実践における課題を発見し、解決のために必要な調査・研究をすすめ、実践に個人やチームで取り組み、その成果を論理的に発表・討議する能力を持っている。

○ 心理学専修

- ・ 講義、演習、実験を通して身につけた知識は卒業論文という形で表現され口頭発表される。(1)文献レビュー、課題(問題)設定、方法論的吟味・検討、データ収集と分析、多角的な考察に基づいて論文を作成する表現能力や、(2)発表や討論へ積極的に参加するためのコミュニケーション能力を鍛えることで、創造的知性が身に付いている。

社会的な実践力

○ 小学校教員養成課程

- ・ 教員として必要なコミュニケーション能力と倫理観を身に付け、社会に貢献することができる。

○ 教育学専修

- ・ 社会や教育に対する幅広い関心を持ち、市民としての教養や実践力を身につけ、それを市民生活や職業生活において活かすことができる。

○ 心理学専修

- ・ 実験、演習などにおいては、一連の作業をチームで進めてゆく協働学修の体験を積み重ねる。そのような学修体験を通して、対人関係能力、コミュニケーション力などが身に付いている。

グローバルな視野

○ 小学校教員養成課程

- ・ 国際的な問題に関心と理解力を持ち、国際感覚を身に付けている。

○ 教育学専修

- ・ 国際的な問題に関心を持ち、国際的な視野の中で教育を考察する力を持ち、異なる価値観や文化に対する理解力を持っている。

○ 心理学専修

- ・ 発達・教育・臨床の分野において海外の研究動向も踏まえたグローバルな視野から、心理学的課題を探究するための力を身に付けている。

情報通信技術の活用力

○ 小学校教員養成課程

- ・ 情報通信技術 (ICT) を活用するために必要な知識・技能・倫理を身に付け、情報の収集・分析・加工・発信を行うことができる。

○ 教育学専修

- ・ 社会生活や職業生活に求められる情報通信技術を活用するために必要な知識・技能・倫理を身につけ、情報を読みとくためのメディアリテラシーを身につけている。

○ 心理学専修

- ・ 心理学研究法、心理統計法などの授業を受講することにより、先行研究に関する情報収集、データベースの利用、統計的分析におけるコンピュータの活用など、ICT 環境を積極的に活用する力が身に付いている。

汎用的な知力

○ 小学校教員養成課程

- ・ あらゆる専門分野や社会生活の基盤として求められる読解力、文章表現力、数的処理能力を身に付けている。

○ 教育学専修

- ・あらゆる専門分野や社会生活の基盤として求められる批判的知性、自主的判断力、情報読解力を身につけている。

○ 心理学専修

- ・汎用的な知力としては、心理学実験におけるデータ処理能力、文献購読による読解力（外国語を含む）、演習における発表時のプレゼンテーション能力、そして、授業のなかで他者とのディスカッションする力、相互に理解を深めためにコミュニケーションする力、論理的に考える力等が身に付いている。

教育課程編成・実施の方針 CP（カリキュラム・ポリシー）

①教育課程編成の方針

○ 小学校教員養成課程

体系性：各分野の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：2年次から副専攻制度を実施し、小学校教員養成課程のほかに、他の課程および専修一つを選択し、学習するシステムを運用しています。副専攻で選んだ特定の教科や分野について、さらに専門的知見を深めたり、視野を広げたりすることができます。

○ 教育学専修

体系性：教育学および隣接諸科学の学問体験を基盤として教育課程を編成しており、広い視点から教育学に関する知識・理解を習得することができます。

段階性：基礎的な科目から学年進行にそって応用的・発展的な科目を講義や演習を通して学修することにより、教員に必要な汎用的技能を習得することができます。

個別化：3、4年次には、教育学の専門的な授業科目をおき、教職など将来の進路を見とおした科目履修を保障するよう編成しています。

○ 心理学専修

体系性：「心理学実験 I、II」「心理的アセスメント」「教育・学校心理学」「発達心理学」「臨床心理学概論」を必修し、心理学基礎科目群、教育・発達心理学科目群、臨床心理学科目群、応用心理学科目群の中から選択履修した上で、最終年に卒業論文を作成する構成になっています。

段階性：低学年時には心理学基礎科目（研究法や概論）を中心に履修し、後続学年で心理学に関する基礎理論に関する科目（教育・学校心理学、発達心理学、臨床心理学）を履修し、高学年で応用心理学（社会・集団・家族心理学、産業・組織心理学）に関する科目を履修することで、段階的に知識を深める構成になっています。

個別化（公認心理師プログラム）：保健医療、福祉、教育、司法、産業・労働の分野において心理学に関する専門的知識や技術を修得し支援業務に携わる心理職「公認心理師」受験資格プログラムをR2年度入学生から受講することができます。

②教育課程における教育・学習方法に関する方針

教育課程においては、各科目の目的及び学修目標に応じ、講義・演習・実習等の様々な方法・形態により授業を実施し、学生が主体的・能動的に学び、人材育成の目的及び学位授与の方針に相応しい資質・能力を身につけることができるよう工夫します。

③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA 及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の評価は、各科目の目的及び学修目標を踏まえ、科目毎にシラバスに示す評価方法・基準により、筆記試験、レポート、講義・演習・実習等への積極的な参加等により行うものとし、公正かつ的確に実施します。

入学者受入れの方針 AP（アドミッション・ポリシー）

◆求める学生像

小学校教員養成課程では、人材育成の目的及び学位授与の方針を踏まえ、次のような人を広く求めます。

1. 小学校教員を目指す強い意志と情熱を持ち、教育に関わる諸問題解決に真摯で意欲的な取り組みができる人
2. 自ら学ぼうとする学習意欲があり、高等学校までの教科（例えば国語・数学・外国語等）の基礎的知識・技能を活用して問題を解決できる能力を持つ人
3. 子どもの教育と社会的活動に幅広い興味と関心を有する人
4. 必要なコミュニケーション能力と協調性を備えている人
5. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を有する人

◆入学者選抜の基本方針

小学校教員養成課程では、大学入学までに身につけておくことが期待される資質・能力として、子どもの教育に対する幅広い関心と情熱、論理的思考力、コミュニケーション能力を重視しています。また、以上の学生を選抜するための基本方針として、多様な学生を評価できる入試を提供します。（詳細は、入学者選抜要項、学生募集要項を参照）

- ・一般選抜では、大学入学共通テストを課すとともに、個別学力検査等で各課程・専攻に応じて、国語、数学、外国語、実技、面接等のうちから必要な科目を課し、高等学校までの教科の基礎的知識・技能と、論理的思考力・判断力・表現力等及び教職への意欲を主体として、評価・選抜を行います。なお、面接においては、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度についても評価します。
- ・学校推薦型選抜Ⅱでは、大学入学共通テストを課し、高等学校までの教科の基礎的知識・技能を評価するとともに、調査書や推薦書等を参考にしながら、課程の特性を踏まえた面接等を実施し、論理的思考力・判断力・表現力等及び教職への意欲を主体として、評価・選抜を行います。なお、面接においては、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度についても評価します。

卒業認定・学位授与の方針 DP (ディプロマ・ポリシー)

◆人材育成の目的・学位授与の方針

教育学部は、学士課程教育において、「広い視野と深い教養をもった豊かな人間性を基盤とした教員及び教育関係職員の養成のため、必要な基礎的・専門的な知識・技術を習得させ、併せて主体的な課題探求能力を育成する」ことを目的としています。

中学校教員養成課程(国語)では、このことを踏まえ、以下に示す学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、教養教育では幅広い分野の知識、各課程・専攻では分野の特性に応じた知識・能力を身に付けるとともに、所定の単位を修得し、以下の資質・能力を身につけた者に、学士の学位を授与します。

- ・ 言語・文学・国語科教育のすべての面での学習を通して、幅広く豊かな教養と確かな専門性を身に付け、社会に貢献することができる。
- ・ 現代社会において必要とされる創造的知性と実践力を兼ね備え、グローバルな視野と国際的対話力をもって、社会に参画することができる。
- ・ 教育上の諸問題を広い視野で多面的に捉え、協働しながら解決していくためのコミュニケーションをとることができる。

学修成果

豊かな教養

- ・ 国語に関する一般的な理解と関心を持ち、基礎・基本的な知識を身に付けている。そして異なる思考様式を理解し、知を高めていく主体的な学習態度が備わっている。

確かな専門性

- ・ 言語・文学・書道・国語教育の分野で、理論・概念や方法論に関する基本的知識を身に付け、当該分野の情報・データを活用し、問題解決のために応用できる。

創造的な知性

- ・ 言語・文学・書道・国語教育の分野で、自分で課題を発見し、解決のために必要な調査・研究及び実践に個人やチームで取り組み、その成果を論理的に発表・討議する能力を持っている。

社会的な実践力

- ・ 社会に対する幅広い関心を持ち、人々や社会との関わりの中で自分を見つめ、市民や教員として必要なコミュニケーション能力、倫理観を身に付け、将来進むべき道を探求し、社会に貢献する意欲を持っている。

グローバルな視野

- ・ 国際的な問題に関心を持ち、国際的な視野の中で国語を考察する力量を持つ。国際社会に積極的に参加するために必要な外国語運用能力と異なる価値観や文化に対する理解力を持ち、国際感覚を身に付けている。

情報通信技術の活用力

- ・ 現代の社会生活に求められる情報通信技術 (ICT) を活用するために必要な知識・技能・倫理を身に付けている。

汎用的な知力

- ・ あらゆる専門分野や社会生活の基盤として求められる判断力、読解力、文章表現力、データ処理能力を身に付けている。

教育課程編成・実施の方針 CP（カリキュラム・ポリシー）

①教育課程編成の方針

体系性：各分野の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：2年次から各分野の専門的な授業科目を置き、言語・文学・国語科教育の各分野での専門的な研究に対応できる科目履修を保障するよう編成しています。

②教育課程における教育・学習方法に関する方針

教育課程においては、各科目の目的及び学修目標に応じ、講義・演習・実習等の様々な方法・形態により授業を実施し、学生が主体的・能動的に学び、人材育成の目的及び学位授与の方針に相応しい資質・能力を身につけることができるよう工夫します。

③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA 及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の評価は、各科目の目的及び学修目標を踏まえ、科目毎にシラバスに示す評価方法・基準により、筆記試験、レポート、講義・演習・実習等への積極的な参加等により行うものとし、公正かつ的確に実施します。

入学者受入れの方針 AP（アドミッション・ポリシー）

◆求める学生像

中学校教員養成課程では、人材育成の目的及び学位授与の方針を踏まえ、次のような人を広く求めます。

1. 中学校教員等を目指す明確な意思と情熱を持ち、教育に関わる諸問題解決に真摯で意欲的な取り組みができる人
2. 自ら学ぼうとする学習意欲があり、高等学校までの教科（例えば国語・数学・外国語等）の基礎的知識・技能を活用して問題を解決できる能力を持つ人
3. 子どもの教育と社会的活動に幅広い興味と関心を有する人
4. 必要なコミュニケーション能力と協調性を備えている人
5. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を有する人

◆入学者選抜の基本方針

中学校教員養成課程では、大学入学までに身につけておくことが期待される資質・能力として、子どもの教育に対する幅広い関心と情熱、論理的思考力、コミュニケーション能力を重視しています。また、以上の学生を選抜するための基本方針として、多様な学生を評価できる入試を提供します。（詳細は、入学者選抜要項、学生募集要項を参照）

一般選抜では、大学入学共通テストを課すとともに、個別学力検査等で各課程・専攻に応じて、国語、数学、外国語、実技、面接等のうちから必要な科目を課し、高等学校までの教科の基礎的知識・技能と、論理的思考力・判断力・表現力等及び教職への意欲を主体として、評価・選抜を行います。なお、面接においては、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度についても評価します。

卒業認定・学位授与の方針 DP（ディプロマ・ポリシー）

◆人材育成の目的・学位授与の方針

教育学部は、学士課程教育において、「広い視野と深い教養をもった豊かな人間性を基盤とした教員及び教育関係職員の養成のため、必要な基礎的・専門的な知識・技術を修得させ、併せて主体的な課題探究能力を育成する」ことを目的としています。

中学校教員養成課程（社会）では、「人文・社会科学系の諸学問を総合的に学ぶとともに、社会認識能力および教員や教育関係職員としての基本的な能力と資質を身につけること」を目標とするとともに、幅広い分野にわたる各専門科目や演習・実習の特性を生かして論理的判断力（公民系諸科目）、実証的判断力（地歴系諸科目）、教育現場における分析・実践力（教科教育、実習）を養い、問題解決に向けて適切な行動がとれる人材の育成を目指しています。

このことを踏まえ、以下に示す学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、教養教育では幅広い分野の知識、各課程・専攻では分野の特性に応じた知識・能力を身に付けるとともに、所定の単位を修得し、以下の資質・能力を身に付けた者に、学士の学位を授与します。

- ・幅広い分野にわたる各専門科目を生かして論理的判断力、実証的判断力を身に付けることができる。
- ・教育現場における分析・実践力（教科教育、実習）を養い、問題解決に向けて適切な行動がとることができる。
- ・協働しながら解決していくコミュニケーション能力を身に付けることができる。

学修成果

豊かな教養

- ・文化・社会に関する一般的な理解と関心を持っている。
- ・自然・生命に関する基本的な理解と広い視野を持っている。

確かな専門性

- ・人文・社会系諸学問・社会科教育学の基本的理論・概念について説明することができる。
- ・人文・社会系諸学問・社会科教育学における研究・教育手法を使用することができる。
- ・人文・社会系諸学問・社会科教育学の最新動向について様々な情報源から自律的に情報を取捨選択できる。

創造的な知性

- ・人文・社会系諸学問・社会科教育学における手法を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を探ることができる。

社会的な実践力

- ・柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。

グローバルな視野

- ・外国語の文献を読解することを通して、母国とは異なる価値観や文化に対する理解力を持ち、国際感覚を身につけている。

情報通信技術の活用力

- ・インターネット等を含む ICT を使用し、情報の収集・分析・判断・応用を行うことができる。

汎用的な知力

- ・相手の立場や意見を適切に理解したうえで、相手にわかりやすく、情報や意見を伝えることができる。
- ・明晰な論理の筋道と説得力ある表現を用いて、文章を作成することができる。

教育課程編成・実施の方針 CP（カリキュラム・ポリシー）

①教育課程編成の方針

体系性：歴史的分野、地理的分野、公民的分野等、各分野の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。
段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を修得するよう編成しています。2年次では各専門領域に係る「概説」、3年次ではより専門的な「特講（特殊講義）」を配置し、4年次では3年次からの「演習（ゼミ）」の成果を卒業論文の成果につなげています。

個別化（進路への対応）：3・4年次には卒論指導担当教員が学生一人一人の個性や進路に応じた適切な指導を行えるよう編成しています。

②教育課程における教育・学習方法に関する方針

教育課程においては、各科目の目的及び学修目標に応じ、講義・演習・実習等の様々な方法・形態により授業を実施し、学生が主体的・能動的に学び、人材育成の目的及び学位授与の方針に相応しい資質・能力を身につけることができるよう工夫します。

③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA 及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の評価は、各科目の目的及び学修目標を踏まえ、科目毎にシラバスに示す評価方法・基準により、筆記試験、レポート、講義・演習・実習等への積極的な参加等により行うものとし、公正かつ的確に実施します。

入学者受入れの方針 AP（アドミッション・ポリシー）

◆求める学生像

中学校教員養成課程では、人材育成の目的及び学位授与の方針を踏まえ、次のような人を広く求めます。

1. 中学校教員等を目指す明確な意志と情熱を持ち、教育に関わる諸問題解決に真摯で意欲的な取り組みができる人
2. 自ら学ぼうとする学習意欲があり、高等学校までの教科（例えば国語・数学・外国語等）の基礎的知識・技能を活用して問題を解決できる能力を持つ人
3. 子どもの教育と社会的活動に幅広い興味と関心を有する人
4. 必要なコミュニケーション能力と協調性を備えている人
5. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を有する人

◆入学者選抜の基本方針

中学校教員養成課程では、大学入学までに身につけておくことが期待される資質・能力として、子どもの教育に対する幅広い関心と情熱、論理的思考力、コミュニケーション能力を重視しています。また、以上の学生を選抜するための基本方針として、多様な学生を評価できる入試を提供します。（詳細は、入学者選抜要項、学生募集要項を参照）

一般選抜では、大学入学共通テストを課すとともに、個別学力検査等で各課程・専攻に応じて、国語、数学、外国語、実技、面接等のうちから必要な科目を課し、高等学校までの教科の基礎的知識・技能と、論理的思考力・判断力・表現力等及び教職への意欲を主体として、評価・選抜を行います。なお、面接においては、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度についても評価します。

卒業認定・学位授与の方針 DP (ディプロマ・ポリシー)

◆人材育成の目的・学位授与の方針

教育学部は、学士課程教育において、「広い視野と深い教養をもった豊かな人間性を基盤とした教員及び教育関係職員の養成のため、必要な基礎的・専門的な知識・技術を修得させ、併せて主体的な課題探究能力を育成する」ことを目的としています。

中学校教員養成課程(数学)では、数学および数学教育に関する体系的な教育指導を通して、高度の教育実践力を身に付けた数学教員を育成します。学士課程の教育を受けることにより、代数学・幾何学・解析学・応用数学・数学教育の専門的知識を得ることができます。優れた学習指導能力と教材研究開発能力を持つ教員を養成することが目的です。

このことを踏まえ、以下に示す学修成果を達成すべく編成された教育課程において、教養教育では幅広い分野の知識、各課程・専攻では分野の特性に応じた知識・能力を身に付けるとともに、所定の単位を修得し、以下の資質・能力を身に付けた者に、学士の学位を授与します。

- ・ 数学教員として必要な基礎的・専門的な知識・技術を身につけることができる。
- ・ 数学および数学教育に関する課題探求能力を身につけることができる。

学修成果

豊かな教養

- ・ 文化・社会や自然・生命に関する幅広い教養と豊かな人間性を身に付けている。
- ・ 自然科学・社会科学・情報科学に関する一般的な知識を持っている。また、社会や日常生活に潜む数理的現象やその仕組みに関心を持ち、面白さを見出すことができる。

確かな専門性

- ・ 数学および数学教育(代数学・幾何学・解析学・応用数学・数学教育学)の基本的理論・概念について理解し、説明することができる。
- ・ 数学および数学教育(代数学・幾何学・解析学・応用数学・数学教育学)に関する文献や資料を調べ、最新の研究動向について情報を得ることができる。
- ・ 教職の意義・教育の基礎理論・教育課程及び指導法・生徒指導・教育相談及び進路指導等の教職に関する基礎的な知識を持ち、理解している。

創造的な知性

- ・ 数学および数学教育(代数学・幾何学・解析学・応用数学・数学教育学)の理論・実践について先行研究における問題点を整理し分析・検討・考察を行うことができる。また、解決方策を見出すことができる。

社会的な実践力

- ・ 数学および数学教育について得た深く幅広い知識および技能と、高い数学的・論理的思考力を活用して、学習指導と教材開発に活かすことができる。

グローバルな視野

- ・ 国際的な数理科学の発展および現在社会への応用を把握し、数学教育の国際的な比較などを通してグローバルな視点を育てる。

情報通信技術の活用力

- ・ インターネットやeメールを利用し、数学および数学教育に関する情報の収集・分析・交換を行うことができる。

汎用的な知力

- ・ 数学の具体的な授業デザインの力量を備えている。
- ・ 数学および数学教育に関して得た知見や自らの考えを、明晰な論理の筋道と表現を用いて、わかりやすく伝える文章表現力・プレゼンテーション能力を身に付けている。

教育課程編成・実施の方針 CP (カリキュラム・ポリシー)

①教育課程編成の方針

体系性：代数学・幾何学・解析学・応用数学・数学教育の各分野の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って専門的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：3・4年次において各分野の専門的な授業科目およびゼミナールを置き、各学生の進路に応じた指導を行えるよう編成しています。

②教育課程における教育・学習方法に関する方針

教育課程においては、各科目の目的及び学修目標に応じ、講義・演習・実習等の様々な方法・形態により授業を実施し、学生が主体的・能動的に学び、人材育成の目的及び学位授与の方針に相応しい資質・能力を身につけることができるよう工夫します。

③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA 及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の評価は、各科目の目的及び学修目標を踏まえ、科目毎にシラバスに示す評価方法・基準により、筆記試験、レポート、講義・演習・実習等への積極的な参加等により行うものとし、公正かつ的確に実施します。

入学者受入れの方針 AP (アドミッション・ポリシー)

◆求める学生像

中学校教員養成課程では、人材育成の目的及び学位授与の方針を踏まえ、次のような人を広く求めます。

1. 中学校教員を目指す明確な意志と情熱を持ち、教育に関わる諸問題解決に真摯で意欲的な取り組みができる人
2. 自ら学ぼうとする学習意欲があり、高等学校までの教科（例えば国語・数学・外国語等）の基礎的知識・技能を活用して問題を解決できる能力を持つ人
3. 子どもの教育と社会的活動に幅広い興味と関心を有する人
4. 必要なコミュニケーション能力と協調性を備えている人
5. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を有する人

◆入学者選抜の基本方針

中学校教員養成課程では、大学入学までに身につけておくことが期待される資質・能力として、子どもの教育に対する幅広い関心と情熱、論理的思考力、コミュニケーション能力を重視しています。また、以上の学生を選抜するための基本方針として、多様な学生を評価できる入試を提供します。（詳細は、入学者選抜要項、学生募集要項を参照）

一般選抜では、大学入学共通テストを課すとともに、個別学力検査等で各課程・専攻に応じて、国語、数学、外国語、実技、面接等のうちから必要な科目を課し、高等学校までの教科の基礎的知識・技能と、論理的思考力・

判断力・表現力等及び教職への意欲を主体として、評価・選抜を行います。なお、面接においては、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度についても評価します。

卒業認定・学位授与の方針 DP (ディプロマ・ポリシー)

◆人材育成の目的・学位授与の方針

教育学部は、学士課程教育において、「広い視野と深い教養をもった豊かな人間性を基盤とした教員及び教育関係職員の養成のため、必要な基礎的・専門的な知識・技術を修得させ、併せて主体的な課題探究能力を育成する」ことを目的としています。

中学校教員養成課程(理科)では、自らの専門性を高める学びを通して、理科学習を構想・実践し、学習者に対して適切な指導・支援ができる能力を身につけることができます。具体的には、物理学、化学、生物学、地学、理科教育学の基礎的・専門的知識及び実験・観察・指導法の技能を習得して活用する能力、科学的・論理的な思考力、問題解決能力、コミュニケーション能力を身につけることができます。

このことを踏まえ、以下に示す学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、教養教育では幅広い分野の知識、各課程・専攻では分野の特性に応じた知識・能力を身に付けるとともに、所定の単位を修得し、以下の資質・能力を身につけた者に、学士の学位を授与します。

- ・理科の探究能力および実践的指導力を修得し、教育現場に貢献できる。
- ・理科に関する現代的課題に関する専門的知識を修得し、課題を分析して解決することができる。
- ・文化・社会、自然・生命に関して、異なる見解を理解し、多様性を尊重する態度を備えている。

学修成果

豊かな教養

- ・文化・社会に関する一般的な理解と関心を持っている。
- ・自然・生命に関する基本的な理解と広い視野を持っている。

確かな専門性

- ・物理学・化学・生物学・地学・理科教育学の基本的理論・概念について説明することができる。
- ・物理学・化学・生物学・地学における実験、理科指導法に関しての基本的な技能を修得している。
- ・自然科学・理科教育学における研究手法を習得し、問題解決に適用できる。
- ・自然科学・理科教育学の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる。

創造的な知性

- ・自然科学・理科教育学を用いて、個人やチームで理科教育実践における課題を見出し、論理的に思考し、その解決法を提案することができる。

社会的な実践力

- ・理科教員としての責務を実感し、他者や社会との関わりに必要なコミュニケーション能力や倫理観を習得し、教科および教科の教育に関する学びの成果を教育現場における教育活動につなげることができる。

グローバルな視野

- ・国際的な視野で自然科学や環境問題を捉え、資料を収集分析したり、その結果をまとめて表現したりするための外国語運用能力と多様な見解に対する理解力を身につけている。

情報通信技術の活用力

- ・インターネットやeメールを含むICTを使用し、情報の収集・分析や交換を行うことができる。
- ・ICTを活用した文書、データ処理、プレゼンテーション資料を作成する能力を身につけている。
- ・理科教育実践における実験・観察を充実させるためにICTを活用する能力を身につけている。
- ・情報を扱う上での倫理観を習得し、教育現場におけるICTを利用した教育活動につなげることができる。

汎用的な知力

- ・相手に分かりやすく、相手の関心を惹き付ける話し方で、情報や意見を伝えることができる。

- ・ 明晰な論理の筋道と説得力ある表現、及び数的処理能力を用いて、客観的でわかりやすい資料を作成することができる。

教育課程編成・実施の方針 CP（カリキュラム・ポリシー）

①教育課程編成の方針

体系性：中等理科教育の教員として必要な専門性を修得するために、理科の全分野をバランスよく履修できる教育課程を編成しています。

段階性：学年進行にしたがって、基礎的な科目から応用的・発展的な科目を学修することができます。また、理論と実践の往還を行いながら、各学年で理科および理科の指導法の授業を学習できます。

個別化（進路への対応）：3年次から研究室に所属し、学生の希望する専門（物理・化学・生物・地学・理科教育）を中心に講義や演習を履修できるようにしています。

②教育課程における教育・学習方法に関する方針

教育課程においては、各科目の目的及び学修目標に応じ、講義・演習・実習等の様々な方法・形態により授業を実施し、学生が主体的・能動的に学び、人材育成の目的及び学位授与の方針に相応しい資質・能力を身につけることができるよう工夫します。

③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA 及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の評価は、各科目の目的及び学修目標を踏まえ、科目毎にシラバスに示す評価方法・基準により、筆記試験、レポート、講義・演習・実習等への積極的な参加等により行うものとし、公正かつ的確に実施します。

入学者受入れの方針 AP（アドミッション・ポリシー）

◆求める学生像

中学校教員養成課程では、人材育成の目的及び学位授与の方針を踏まえ、次のような人を広く求めます。

1. 中学校教員を目指す明確な意志と情熱を持ち、教育に関わる諸問題解決に真摯で意欲的な取り組みができる人
2. 自ら学ぼうとする学習意欲があり、高等学校までの教科（例えば国語・数学・外国語等）の基礎的知識・技能を活用して問題を解決できる能力を持つ人
3. 子どもの教育と社会的活動に幅広い興味と関心を有する人
4. 必要なコミュニケーション能力と協調性を備えている人
5. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を有する人

◆入学者選抜の基本方針

中学校教員養成課程では、大学入学までに身につけておくことが期待される資質・能力として、子どもの教育に対する幅広い関心と情熱、論理的思考力、コミュニケーション能力を重視しています。また、以上の学生を選抜するための基本方針として、多様な学生を評価できる入試を提供します。（詳細は、入学者選抜要項、学生募集要項を参照）

- ・ 一般選抜では、大学入学共通テストを課すとともに、個別学力検査等で各課程・専攻に応じて、国語、数学、外国語、実技、面接等のうちから必要な科目を課し、高等学校までの教科の基礎的知識・技能と、論理的思考力・判断力・表現力等及び教職への意欲を主体として、評価・選抜を行います。なお、面接においては、主体

性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度についても評価します。

- ・学校推薦型選抜Ⅱでは、大学入学共通テストを課し、高等学校までの教科の基礎的知識・技能を評価するとともに、調査書や推薦書等を参考にしながら、課程・専攻の特性を踏まえた面接等を実施し、論理的思考力・判断力・表現力等及び教職への意欲を主体として、評価・選抜を行います。なお、面接においては、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度についても評価します。

卒業認定・学位授与の方針 DP (ディプロマ・ポリシー)

◆人材育成の目的・学位授与の方針

教育学部は、学士課程教育において、「広い視野と深い教養をもった豊かな人間性を基盤とした教員及び教育関係職員の養成のため、必要な基礎的・専門的な知識・技術を修得させ、併せて主体的な課題探究能力を育成する」ことを目的としています。

中学校教員養成課程(音楽)では、「音楽および音楽科教育について広い視野と深い教養、高度な技能をもった豊かな人間性を基盤とした教員及び教育関係職の養成」を目標とするとともに、「音楽科教員として必要な基礎的・専門的な知識・技能を修得し、併せて主体的な課題探求能力をもった人材の育成」を目指しています。

これらのことを踏まえ、以下に示す学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下の資質・能力を身につけた者に、学士の学位を授与します。

- ・ 発達途上にある子どもたちに対する音楽および音楽科教育についての専門的立場からの理解力・実践的指導力を身につけることができる。
- ・ 音楽科教育における現代的な教育課題に関する専門的知識を身につけ、課題を分析し解決するために活用できる。
- ・ 音楽科教育上の諸問題を広い視野で多面的に捉え、協働しながら解決していくためのコミュニケーション能力を身につけることができる。

学修成果

豊かな教養

- ・ 望ましい音楽科教員として音楽の理論、概念、歴史をはじめ、文化・社会や自然・生命に関する幅広い知識を身に付け、物事に対する探求心と豊かな教養を身に付けている。

確かな専門性

- ・ 音楽および音楽科教育に関する理論、概念、歴史の専門的知識と声楽・器楽および作曲・編曲等に関する高度な技能を身に付けている。また、児童・生徒への音楽の学習指導に関する専門的な知識・技能を身に付けている。

創造的な知性

- ・ 音楽および音楽科教育に関する課題を発見し、解決のために個人やチームで取り組み、その成果を発表・実践する能力を持っている。

社会的な実践力

- ・ 音楽および音楽科教育をもとに社会に対する幅広い関心を持ち、人々や社会との関わりの中で自分を見つめ、市民や職業人として必要なコミュニケーション能力、倫理観を身に付け、将来進むべき道を探求し、社会に貢献する意欲を持っている。

グローバルな視野

- ・ 音楽や音楽科教育を通して国際社会に積極的に参加するために必要な価値観や文化に対する理解力を持ち、国際感覚を身に付けている。

情報通信技術の活用力

- ・ 情報通信技術 (ICT) を活用した情報収集や学習指導に必要な知識・技能・倫理を身に付けている。

汎用的な知力

- ・ あらゆる専門分野や社会生活の基盤として求められる読解力、表現力を身に付けている。

教育課程編成・実施の方針 CP（カリキュラム・ポリシー）

①教育課程編成の方針

体系性：音楽科教育に関する各分野の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学習するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：望ましい音楽科教員等になるために3・4年次に設定した個々の研究分野に即した科目履修を保證するよう編成しています。

②教育課程における教育・学習方法に関する方針

教育課程においては、各科目の目的及び学修目標に応じ、講義・演習・実習等の様々な方法・形態により授業を実施し、学生が主体的・能動的に学び、人材育成の目的及び学位授与の方針に相応しい資質・能力を身につけることができるよう工夫します。

③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA 及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の評価は、各科目の目的及び学修目標を踏まえ、科目毎にシラバスに示す評価方法・基準により、筆記試験、レポート、講義・演習・実習等への積極的な参加等により行うものとし、公正かつ的確に実施します。

入学者受入れの方針 AP（アドミッション・ポリシー）

◆求める学生像

中学校教員養成課程では、人材育成の目的及び学位授与の方針を踏まえ、次のような人を広く求めます。

1. 中学校教員等を目指す明確な意志と情熱を持ち、教育に関わる諸問題解決に真摯で意欲的な取り組みができる人
2. 自ら学ぼうとする学習意欲があり、高等学校までの教科（例えば国語・数学・外国語等）の基礎的知識・技能を活用して問題を解決できる能力を持つ人
3. 子どもの教育と社会的活動に幅広い興味と関心を有する人
4. 必要なコミュニケーション能力と協調性を備えている人
5. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を有する人

◆入学者選抜の基本方針

中学校教員養成課程では、大学入学までに身につけておくことが期待される資質・能力として、子どもの教育に対する幅広い関心と情熱、論理的思考力、コミュニケーション能力を重視しています。また、以上の学生を選抜するための基本方針として、多様な学生を評価できる入試を提供します。（詳細は、入学者選抜要項、学生募集要項を参照）

一般選抜では、大学入学共通テストを課すとともに、個別学力検査等で各課程・専攻に応じて、国語、数学、外国語、実技、面接等のうちから必要な科目を課し、高等学校までの教科の基礎的知識・技能と、論理的思考力・判断力・表現力等及び教職への意欲を主体として、評価・選抜を行います。なお、面接においては、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度についても評価します。

卒業認定・学位授与の方針 DP (ディプロマ・ポリシー)

◆人材育成の目的・学位授与の方針

教育学部は、学士課程教育において、「広い視野と深い教養をもった豊かな人間性を基盤とした教員及び教育関係職員の養成のため、必要な基礎的・専門的な知識・技術を修得させ、併せて主体的な課題探求能力を育成する」ことを目的としています。

中学校教員養成課程(美術)では、このことを踏まえ、以下に示す学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、教養教育では幅広い分野の知識、各課程・専攻では分野の特性に応じた知識・能力を身に付けるとともに、所定の単位を修得し、以下の資質・能力を身につけた者に、学士の学位を授与します。

- ・ 発達途上にある子どもたちを美術教育の専門的立場から理解し、実践的に指導できる。
- ・ 現代的教育課題に関する美術教育の専門的知識をもとに、課題を分析し解決することができる。
- ・ 美術教育上の諸問題を広い視野で多面的に捉え、協働しながら解決していくためのコミュニケーションができる。

学修成果

豊かな教養

- ・ 美術に関する教養を育み、講義、演習、実技を通じた学習により、豊かな教養が身に付いている。

確かな専門性

- ・ 美術教員として、絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術理論・美術史、美術科教育に関する高度な専門性が身に付いている。

創造的な知性

- ・ 美術科での専門的な学習を通して造形的思考を養い、問題解決に資する能力が身に付いている。

社会的な実践力

- ・ 展覧会および、対外的な各種コンクールへの参加や芸術活動、ボランティア活動を通して、地域社会とのコミュニケーション能力が身に付いている。

グローバルな視野

- ・ 美術や美術科教育を通して国際社会に積極的に参加するために必要な価値観や文化に対する理解力を持ち、国際感覚を身に付けている。

情報通信技術の活用力

- ・ 授業を通して、情報通信技術 (ICT) を修得し、制作やプレゼンテーション等に活用できる能力が身に付いている。

汎用的な知力

- ・ 社会において活用できる実践的な芸術鑑賞力や表現力が身に付いている。

教育課程編成・実施の方針 CP (カリキュラム・ポリシー)

①教育課程編成の方針

美術科教育講座は、学士課程教育において、「広い視野と深い教養を持った豊かな人間性を基盤とした教員及び教育関係職員の養成のため、必要な基礎的・専門的な知識・技術を修得させ、併せて主体的な課題探求能力を育成する」ことを目的としています。このことを踏まえ、美術科教育講座では、以下の方針に基づき教育カリキュラムを編成しています。

- ・美術教育における専門的内容について体系的、段階的、個別的にバランスよく学修することができる。
- ・教員等に求められる資質能力を高めるために、美術教育に関する教職科目、教科科目等から総合的に学修することができる。

②教育課程における教育・学習方法に関する方針

教育課程においては、各科目の目的及び学修目標に応じ、講義・演習・実習等の様々な方法・形態により授業を実施し、学生が主体的・能動的に学び、人材育成の目的及び学位授与の方針に相応しい資質・能力を身につけることができるよう工夫します。

③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA 及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の評価は、各科目の目的及び学修目標を踏まえ、科目毎にシラバスに示す評価方法・基準により、筆記試験、レポート、講義・演習・実習等への積極的な参加等により行うものとし、公正かつ的確に実施します。

入学者受入れの方針 AP (アドミッション・ポリシー)

◆求める学生像

中学校教員養成課程では、人材育成の目的及び学位授与の方針を踏まえ、次のような人を広く求めます。

1. 教員等を目指す強い意志と情熱を持ち、教育に関わる諸問題に真摯で意欲的な取り組みができる人。
2. 自ら学ぼうとする学習意欲があり、高等学校までの教科（例えば国語・数学・外国語等）の基礎的知識・技能を活用して問題を解決できる能力を持つ人。
3. 子どもの教育と社会的活動に幅広い興味と関心を有する人。
4. 必要なコミュニケーション能力と協調性を備えている人。
5. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を有する人

◆入学者選抜の基本方針

中学校教員養成課程では、大学入学までに身につけておくことが期待される資質・能力として、子どもの教育に対する幅広い関心と情熱、論理的思考力、コミュニケーション能力を重視しています。また、以上の学生を選抜するための基本方針として、多様な学生を評価できる入試を提供します。（詳細は、入学者選抜要項、学生募集要項を参照）

- ・一般選抜では、大学入学共通テストを課すとともに、個別学力検査等で各課程・専攻に応じて、国語、数学、外国語、実技、面接等のうちから必要な科目を課し、高等学校までの教科の基礎的知識・技能と、論理的思考力・判断力・表現力等及び教職への意欲を主体として、評価・選抜を行います。なお、面接においては、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度についても評価します。

卒業認定・学位授与の方針 DP (ディプロマ・ポリシー)

◆人材育成の目的・学位授与の方針

教育学部は、学士課程教育において、「広い視野と深い教養をもった豊かな人間性を基盤とした教員及び教育関係職員の養成のため、必要な基礎的・専門的な知識・技術を修得させ、併せて主体的な課題探究能力を育成する」ことを目的としています。

中学校教員養成課程(保健体育)では、深い教養と専門性に裏付けられた実践力を備えた保健体育科教員の養成のため、体育・スポーツなどの指導や学習方法に関する理論に基づいた指導力と実践力を修得させ、併せて主体的な課題探究能力を育成することを目的としています。

このことを踏まえ、以下に示す学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、教養教育では幅広い分野の知識、各課程・専攻では分野の特性に応じた知識・能力を身に付けるとともに、所定の単位を取得し、以下の資質・能力を身につけた者に、学士の学位を授与します。

- ・保健体育科教員として必要な基礎的・専門的な知識・技術を身につけることができる。
- ・課題探求能力、協働しながら解決していくコミュニケーション能力を身につけることができる。

学修成果

豊かな教養

- ・教養ある教員に必要な文化・社会および自然・生命に関する一般的知識を身に付け、様々な思考様式を理解している。
- ・知を高めるための主体的な学修態度が備わっている。

確かな専門性

- ・教職の基本的理論・概念について理解し、説明することができる。
- ・保健体育関連の教科教育・教科専門の基本的理論・概念について理解し、説明することができる。
- ・教職および保健体育関連の教科教育・教科専門における研究手法を理解・取得し、使用することができる。

創造的な知性

- ・教職および保健体育関連の教科教育・教科専門の最新動向に対して常に興味・関心を持ち、自主的に学ぶことができる。
- ・自主的な学びを通して保健体育関連の教科教育・教科専門に関する課題を明らかにし、その解決に向けた柔軟で論理的な思考ができる。

社会的な実践力

- ・現代的教育課題に対し幅広い関心を持ち、適切な対人関係を構築するためのコミュニケーション能力や倫理観を身に付け、協働しながら課題を解決する方法を探ることができる。

グローバルな視野

- ・世界共通のスポーツ文化を通して、異文化や共生社会に対する理解力を身に付け、国際的な友好と親善に意欲を持っている。

情報通信技術の活用力

- ・社会生活に求められる情報通信技術(ICT)を活用するために必要な知識・技能・倫理を身に付け、情報の収集や分析、発信等を行うことができる。

汎用的な知力

- ・あらゆる専門分野や社会生活の基盤として求められる読解力、文章表現力、数的処理能力を身に付けている。

教育課程編成・実施の方針 CP（カリキュラム・ポリシー）

①教育課程編成の方針

保健体育講座は、学士課程教育において、深い教養と専門性に裏付けられた実践力を備えた保健体育科教員の養成のため、体育・スポーツなどの指導や学習方法に関する理論に基づいた指導力と実践力を修得させ、併せて主体的な課題探究能力を育成することを目的としています。このことを踏まえ、保健体育講座では、以下の方針に基づき教育カリキュラムを編成しています。

体系性：体育実技、体育理論・運動学、生理学及び衛生学、学校保健、保健体育科教育の各分野の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：3年次からゼミナールを開講し、将来の進路に即した履修を保証するように編成しています。

②教育課程における教育・学習方法に関する方針

教育課程においては、各科目の目的及び学修目標に応じ、講義・演習・実習等の様々な方法・形態により授業を実施し、学生が主体的・能動的に学び、人材育成の目的及び学位授与の方針に相応しい資質・能力を身につけることができるよう工夫します。

③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA 及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の評価は、各科目の目的及び学修目標を踏まえ、科目毎にシラバスに示す評価方法・基準により、筆記試験、レポート、講義・演習・実習等への積極的な参加等により行うものとし、公正かつ的確に実施します。

入学者受入れの方針 AP（アドミッション・ポリシー）

◆求める学生像

中学校教員養成課程では、人材育成の目的及び学位授与の方針を踏まえ、次のような人を広く求めます。

1. 中学校教員等を目指す強い意志と情熱を持ち、教育に関わる諸問題解決に真摯に意欲的な取り組みができる人
2. 自ら学ぼうとする学習意欲があり、高等学校までの教科（例えば国語・数学・外国語等）の基礎的知識・技能を活用して問題を解決できる能力を持つ人
3. 子どもの教育と社会的活動に幅広い興味と関心を有する人
4. 必要なコミュニケーション能力と協調性を備えている人
5. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を有する人

◆入学者選抜の基本方針

中学校教員養成課程では、大学入学までに身につけておくことが期待される資質・能力として、子どもの教育に対する幅広い関心と情熱、論理的思考力、コミュニケーション能力を重視しています。また、以上の学生を選抜するための基本方針として、多様な学生を評価できる入試を提供します。（詳細は、入学者選抜要項、学生募集要項を参照）

- ・一般選抜では、大学入学共通テストを課すとともに、個別学力検査等で各課程・専攻に応じて、国語、数学、外国語、実技、面接等のうちから必要な科目を課し、高等学校までの教科の基礎的知識・技能と、論理的思考

力・判断力・表現力等及び教職への意欲を主体として、評価・選抜を行います。なお、面接においては、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度についても評価します。

卒業認定・学位授与の方針 DP (ディプロマ・ポリシー)

◆人材育成の目的・学位授与の方針

教育学部は、学士課程教育において、「広い視野と深い教養をもった豊かな人間性を基盤とした教員及び教育関係職員の養成のため、必要な基礎的・専門的な知識・技術を修得させ、併せて主体的な課題探究能力を育成する」ことを目的としています。

中学校教員養成課程(技術)では、「自らの専門性を確立することによって、教科(技術)の教育目的を適切に児童・生徒に伝えることができる能力を獲得すること」ができます。

このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、教養教育では幅広い分野の知識、各課程・専攻では分野の特性に応じた知識・能力を身に付けるとともに、所定の単位を修得し、以下の資質・能力を身につけた者に、学士の学位を授与します。

- ・ 木材加工、金属加工、機械、電気、栽培、情報とコンピュータ、技術教育学の基礎的・専門的知識および製作・制作・育成・指導法の技能を習得し、活用することができる。
- ・ 科学技術的・論理的な思考力、問題解決能力、コミュニケーション能力、ICT活用能力を身につけ、発揮することができる。

学修成果

豊かな教養

- ・ 文化・社会に関する一般的な理解と関心を持っている。
- ・ 自然・生命に関する基本的な理解と広い視野を持っている。

確かな専門性

- ・ 技術教育の基本的理論・概念について説明することができる。
- ・ 技術教育の指導法に関しての基本的な技能を修得している。
- ・ 技術教育における研究手法を用いることができる。
- ・ 技術教育の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる。

創造的な知性

- ・ 技術教育に関する知識・理解・技能により、現実の課題を見出し、解決法を提案することができる。

社会的な実践力

- ・ 柔軟な発想と論理的思考ができる。

グローバルな視野

- ・ 異文化理解と多様性に向けた持続可能な社会の実現を考慮した思考ができる。

情報通信技術の活用力

- ・ 情報機器を活用したプレゼンテーションを行うことができる。
- ・ ICTを活用し、情報の収集・分析、加工、発信を行うことができる。

汎用的な知力

- ・ 相手に分かりやすく、相手の関心を惹き付ける話し方で、情報や意見を伝えることができる。
- ・ 明晰な論理の筋道と説得力ある表現を用いて、文章を作成することができる。
- ・ 職業意識・職業意欲を持っている。

教育課程編成・実施の方針 CP（カリキュラム・ポリシー）

①教育課程編成の方針

体系性：各領域の学問体系を基盤として、技術教育の全領域を網羅する教育課程を編成しています。

段階性：教養教育に始まり学年進行に従って、基礎的な科目から応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：1年次には各領域の専門的な授業科目を置き、将来の進路に即した科目履修を保障するよう編成しています。

具体的には、木材加工、金属加工、機械、電気、栽培、情報とコンピュータ、技術教育学の基礎的・専門的知識および製作・制作・育成・指導法の技能を習得できるように編成しています。

②教育課程における教育・学習方法に関する方針

教育課程においては、各科目の目的及び学修目標に応じ、講義・演習・実習等の様々な方法・形態により授業を実施し、学生が主体的・能動的に学び、人材育成の目的及び学位授与の方針に相応しい資質・能力を身につけることができるよう工夫します。

③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA 及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の評価は、各科目の目的及び学修目標を踏まえ、科目毎にシラバスに示す評価方法・基準により、筆記試験、レポート、講義・演習・実習等への積極的な参加等により行うものとし、公正かつ的確に実施します。

入学者受入れの方針 AP（アドミッション・ポリシー）

◆求める学生像

中学校教員養成課程では、人材育成の目的及び学位授与の方針を踏まえ、次のような人を広く求めます。

1. 中学校教員を目指す明確な意志と情熱を持ち、教育に関わる諸問題解決に真摯で意欲的な取り組みができる人
2. 自ら学ぼうとする学習意欲があり、高等学校までの教科（例えば国語・数学・外国語等）の基礎的知識・技能を活用して問題を解決できる能力を持つ人
3. 子どもの教育と社会的活動に幅広い興味と関心を有する人
4. 必要なコミュニケーション能力と協調性を備えている人
5. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を有する人

◆入学者選抜の基本方針

中学校教員養成課程では、大学入学までに身につけておくことが期待される資質・能力として、生徒の教育に対する幅広い関心と情熱、論理的思考力、コミュニケーション能力を重視しています。また、以上の学生を選抜するための基本方針として、多様な学生を評価できる入試を提供します。（詳細は、入学者選抜要項、学生募集要項を参照）

- ・一般選抜では、大学入学共通テストを課すとともに、個別学力検査等で各課程・専攻に応じて、国語、数学、外国語、実技、面接等のうちから必要な科目を課し、高等学校までの教科の基礎的知識・技能と、論理的思考力・判断力・表現力等及び教職への意欲を主体として、評価・選抜を行います。なお、面接においては、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度についても評価します。
- ・学校推薦型選抜Ⅱでは、大学入学共通テストを課し、高等学校までの教科の基礎的知識・技能を評価するとともに、調査書や推薦書等を参考にしながら、課程・専攻の特性を踏まえた面接等を実施し、論理的思考力・判

断力・表現力等及び教職への意欲を主体として、評価・選抜を行います。なお、面接においては、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度についても評価します。

卒業認定・学位授与の方針 DP (ディプロマ・ポリシー)

◆人材育成の目的・学位授与の方針

教育学部は、学士課程教育において、「広い視野と深い教養をもった豊かな人間性を基盤とした教員及び教育関係職員の養成のため、必要な基礎的・専門的な知識・技術を修得させ、併せて主体的な課題探究能力を育成する」ことを目的としています。

中学校教員養成課程(家庭)では、このことを踏まえ、以下に示す学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、教養教育では幅広い分野の知識、各課程・専攻では分野の特性に応じた知識・能力を身に付けるとともに、所定の単位を修得し、以下の資質・能力を身に付けた者に学士の学位を授与します。

- ・ 広い教養・視野を持ち、豊かな人間性と高度の教育実践力を身に付け、家庭科教育の発展に貢献できる。
- ・ 中学校技術・家庭科(家庭分野)の教科指導と生徒指導・教育方法等の教職に関する専門性を身に付け、教育現場の抱える問題解決に自らの専門力を応用できる。
- ・ 論理的な思考力を有し、多様な価値観・生活文化をもった人々とコミュニケーションをとることができる。

学修成果

豊かな教養

- ・ 教養ある社会人に必要な文化・社会や自然・生命に関する一般的知識を身に付け、異なる思考様式を理解し、知を高めていく主体的な学習態度が備わっている。

確かな専門性

- ・ 家庭科教育に関する理論・概念や方法論等に関する基本的知識と技術を身に付け、家庭科教育に関する内容と方法に関する基本的知識と技術を活用し、中学校技術・家庭(家庭分野)の教科指導・生徒指導等の問題解決のために応用できる。

創造的な知性

- ・ 中学校技術・家庭(家庭分野)の教科指導や生徒指導等に関わる課題を自分で発見し、解決のために必要な調査・研究及び実践に個人やチームで取り組み、その成果を論理的に発表・討議する能力を持っている。

社会的な実践力

- ・ 社会に対する幅広い関心を持ち、人々や社会との関わりの中で自分を見つめ、市民や職業人(特に教員)として必要なコミュニケーション能力、倫理観を身に付け、将来進むべき道を探求し、社会に貢献する意欲を持っている。

グローバルな視野

- ・ 国際社会に積極的に参加するために必要な外国語運用能力と異なる価値観や文化に対する理解力を持ち、国際感覚を身に付けている。

情報通信技術の活用力

- ・ 社会生活に求められる情報通信技術(ICT)を活用するために必要な知識・技能・倫理を身に付けている。

汎用的な知力

- ・ あらゆる専門分野や社会生活の基盤として求められる読解力、文章表現力、数的処理能力を身に付けている。

教育課程編成・実施の方針 CP（カリキュラム・ポリシー）

①教育課程編成の方針

体系性：家庭経営学、被服学、食物学、住居学、保育学、家庭科教育学のいずれの分野も一定の水準以上の専門性を身につけるよう体系的に教育課程を編成しています。

段階性：1年次から4年次までの教育実習の段階性を中軸に、学年進行に従って、導入・基礎的な科目から応用・発展的な科目を学習できるよう教育課程を編成しています。

個別化（進路への対応）：3、4年次には各分野の専門的な授業科目を置き、卒業論文担当教員から個別の関心に応じた研究指導を受けることで、より専門的な知識と技能を身につけることができるよう教育課程を編成しています。

②教育課程における教育・学習方法に関する方針

教育課程においては、各科目の目的及び学修目標に応じ、講義・演習・実習等の様々な方法・形態により授業を実施し、学生が主体的・能動的に学び、人材育成の目的及び学位授与の方針に相応しい資質・能力を身につけることができるよう工夫します。

③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA 及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の評価は、各科目の目的及び学修目標を踏まえ、科目毎にシラバスに示す評価方法・基準により、筆記試験、レポート、講義・演習・実習等への積極的な参加等により行うものとし、公正かつ的確に実施します。

入学者受入れの方針 AP（アドミッション・ポリシー）

◆求める学生像

中学校教員養成課程では、人材育成の目的及び学位授与の方針を踏まえ、次のような人を広く求めます。

1. 中学校教員を目指す明確な意志と情熱を持ち、教育に関わる諸問題解決に真摯で意欲的な取り組みができる人
2. 自ら学ぼうとする学習意欲があり、高等学校までの教科（例えば国語・数学・外国語等）の基礎的知識・技能を活用して問題を解決できる能力を持つ人
3. 子どもの教育と社会的活動に幅広い興味と関心を有する人
4. 必要なコミュニケーション能力と協調性を備えている人
5. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を有する人

◆入学者選抜の基本方針

中学校教員養成課程では、大学入学までに身につけておくことが期待される資質・能力として、子どもの教育に対する幅広い関心と情熱、論理的思考力、コミュニケーション能力を重視しています。また、以上の学生を選抜するための基本方針として、多様な学生を評価できる入試を提供します。（詳細は、入学者選抜要項、学生募集要項を参照）

- ・一般選抜では、大学入学共通テストを課すとともに、個別学力検査等で各課程・専攻に応じて、国語、数学、外国語、実技、面接等のうちから必要な科目を課し、高等学校までの教科の基礎的知識・技能と、論理的思考力・判断力・表現力等及び教職への意欲を主体として、評価・選抜を行います。なお、面接においては、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度についても評価します。
- ・学校推薦型選抜Ⅱでは、大学入学共通テストを課し、高等学校までの教科の基礎的知識・技能を評価するとともに、調査書や推薦書等を参考にしながら、課程・専攻の特性を踏まえた面接等を実施し、論理的思考力・判

断力・表現力等及び教職への意欲を主体として、評価・選抜を行います。なお、面接においては、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度についても評価します。

教育学部 中学校教員養成課程（外国語(英語)）

卒業認定・学位授与の方針 DP(ディプロマ・ポリシー)

教育学部は、学士課程教育において、「広い視野と深い教養をもった豊かな人間性を基盤とした教員及び教育関係職員の養成のため、必要な基礎的・専門的な知識・技術を修得させ、併せて主体的な課題探究能力を育成する」ことを目的としています。

中学校教員養成課程（外国語（英語））では、幅広く豊かな教養と確かな専門性を身に付け、社会に貢献するために必要な創造的知性と実践力を兼ね備え、グローバルな視野と国際的対話力を持った教員の養成を目指しています。

このことを踏まえ、以下に示す学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、教養教育では幅広い分野の知識、各課程・専攻では分野の特性に応じた知識・能力を身に付けるとともに、所定の単位を修得し、下記の資質・能力を身につけた者に、学士の学位を授与します。

・幅広く豊かな教養と確かな専門性およびグローバルな視野と国際的対話力をもとに、創造的知性と実践力を発揮し、教育現場に貢献できる。

学修成果

豊かな教養

- ・ 教養ある社会人に必要な文化・社会や自然・生命に関する一般的知識を身に付け、異なる思考様式を理解し、知を高めていく主体的な学習態度が備わっている。

確かな専門性

- ・ 英語学・英語文学・英語教育学の理論・概念や方法論に関する基本的知識を身に付け、各分野の情報・データを活用し、問題解決のために応用できる。

創造的な知性

- ・ 自分で課題を発見し、解決のために必要な調査・研究及び実践に個人やグループで取り組み、その成果を論理的に発表・討議する能力を持っている。

社会的な実践力

- ・ 社会に対する幅広い関心を持ち、人々や社会との関わりの中で自分を見つめ、教員として必要なコミュニケーション能力、倫理観を身に付け、将来進むべき道を探求し、社会に貢献する意欲を持っている。

グローバルな視野

- ・ 国際社会に積極的に参加するために必要な外国語運用能力と異なる価値観や文化に対する理解力を持ち、国際感覚を身に付けている。

情報通信技術の活用力

- ・ 現代の社会生活に求められる情報通信技術（ICT）を活用するために必要な知識・技能・倫理を身に付けている。

汎用的な知力

- ・ あらゆる専門分野や社会生活の基盤として求められる読解力、文章表現力、データ処理能力を身に付けている。

教育課程編成・実施の方針 CP(カリキュラム・ポリシー)

①教育課程編成の方針

体系性:英語学・英語文学・英語教育学の各分野の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性:基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化(進路への対応):3・4年次には英語学・英語文学・英語教育学の各分野の専門的な授業科目を置き、各分野での専門的な研究に対応できる科目履修を保障するよう編成しています。

②教育課程における教育・学習方法に関する方針

教育課程においては、各科目の目的及び学修目標に応じ、講義・演習・実習等の様々な方法・形態により授業を実施し、学生が主体的・能動的に学び、人材育成の目的及び学位授与の方針に相応しい資質・能力を身につけることができるよう工夫します。

③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA 及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の評価は、各科目の目的及び学修目標を踏まえ、科目毎にシラバスに示す評価方法・基準により、筆記試験、レポート、講義・演習・実習等への積極的な参加等により行うものとし、公正かつ的確に実施します。

入学者受入れの方針 AP(アドミッション・ポリシー)

◆求める学生像

中学校教員養成課程では、人材育成の目的及び学位授与の方針を踏まえ、次のような人を広く求めます。

1. 中学校教員を目指す明確な意志と情熱を持ち、教育に関わる諸問題解決に真摯で意欲的な取り組みができる人
2. 自ら学ぼうとする学習意欲があり、高等学校までの教科(例えば国語・数学・外国語等)の基礎的知識・技能を活用して問題を解決できる能力を持つ人
3. 子どもの教育と社会的活動に幅広い興味と関心を有する人
4. 必要なコミュニケーション能力と協調性を備えている人
5. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を有する人

◆入学者選抜の基本方針

中学校教員養成課程では、大学入学までに身につけておくことが期待される資質・能力として、子どもの教育に対する幅広い関心と情熱、論理的思考力、コミュニケーション能力を重視しています。また、以上の学生を選抜するための基本方針として、多様な学生を評価できる入試を提供します。(詳細は、入学者選抜要項、学生募集要項を参照)

一般選抜では、大学入学共通テストを課すとともに、個別学力検査等で各課程・専攻に応じて、国語、数学、外国語、実技、面接等のうちから必要な科目を課し、高等学校までの教科の基礎的知識・技能と、論理的思考力・判断力・表現力等及び教職への意欲を主体として、評価・選抜を行います。なお、面接においては、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度についても評価します。

卒業認定・学位授与の方針 DP (ディプロマ・ポリシー)

◆人材育成の目的・学位授与の方針

教育学部は、学士課程教育において、「広い視野と深い教養をもった豊かな人間性を基盤とした教員及び教育関係職員の養成のため、必要な基礎的・専門的な知識・技術を修得させ、併せて主体的な課題探究能力を育成する」ことを目的としています。

特別支援教育教員養成課程は、「広い視野と深い教養をもった豊かな人間性を基盤とした教員の養成と、地域社会における特別支援教育の指導者の養成のため、教員としてそして特別支援教育の指導者として必要な基礎的・専門的な知識を修得させ、併せて主体的な課題探求能力を育成する」ことを目的としています。

このことを踏まえ、以下に示す学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、教養教育では幅広い分野の知識、各課程・専攻では分野の特性に応じた知識・能力を身に付けるとともに、所定の単位を修得し、以下の資質・能力を身につけた者に、学士の学位を授与します。

- ・ 特別な支援を必要とする子どもたちを専門的立場から理解し、実践的に指導することができる。
- ・ 現代的教育課題に関する専門的知識をもとに、課題を分析し解決することができる。
- ・ 教育上の諸問題を広い視野で多面的に捉え、協働しながら解決していくためのコミュニケーションができる。

学修成果

豊かな教養

- ・ 教養ある社会人に必要な文化・社会や自然・生命に関する一般的知識を身に付け、異なる思考様式を理解し、知を高めていく主体的な学習態度が備わっている。

確かな専門性

- ・ 特別支援教育の基本的理論・概念について説明することができる。
- ・ 各種の障害をもつ児童生徒への基本的な指導・学習支援を行うことができる。
- ・ 特別支援教育における研究手法を使用することができ、かつ研究の最新動向について主体的に学ぶことができる。

創造的な知性

- ・ 自分で課題を発見し、解決のために必要な調査・研究及び実践に個人やグループで取り組み、その成果を論理的に発表・討議する能力を持っている。

社会的な実践力

- ・ 社会に対する幅広い関心を持ち、人々や社会との関わりの中で自分を見つめ、教員として必要なコミュニケーション能力、倫理観を身に付け、将来進むべき道を探求し、社会に貢献する意欲を持っている。

グローバルな視野

- ・ 国際社会に積極的に参加するために必要な外国語運用能力と異なる価値観や文化に対する理解力を持ち、国際感覚を身に付けている。

情報通信技術の活用力

- ・ 現代の社会生活に求められる情報通信技術 (ICT) を活用するために必要な知識・技能・倫理を身に付け、特別な支援を必要とする子どもたちへの教材開発等に活用することができる。

汎用的な知力

- ・ あらゆる専門分野や社会生活の基盤として求められる読解力、文章表現力、データ処理能力を身に付けている。

教育課程編成・実施の方針 CP（カリキュラム・ポリシー）

①教育課程編成の方針

体系性：特別支援学校教員免許状取得のための必要履修科目を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：3年次から研究室に所属し、専門分野（特別支援教育学・特別支援教育心理学・特別支援教育指導学）を中心に、より専門的な知識と技能を身に着けることができるよう教育課程を編成しています。

②教育課程における教育・学習方法に関する方針

教育課程においては、各科目の目的及び学修目標に応じ、講義・演習・実習等の様々な方法・形態により授業を実施し、学生が主体的・能動的に学び、人材育成の目的及び学位授与の方針に相応しい資質・能力を身につけることができるよう工夫します。

③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA 及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の評価は、各科目の目的及び学修目標を踏まえ、科目毎にシラバスに示す評価方法・基準により、筆記試験、レポート、講義・演習・実習等への積極的な参加等により行うものとし、公正かつ的確に実施します。

入学者受入れの方針 AP（アドミッション・ポリシー）

◆求める学生像

特別支援教育教員養成課程では、人材育成の目的及び学位授与の方針を踏まえ、次のような人を広く求めます。

1. 特別支援学校や小・中学校等において、特別な支援を必要とする子どもの教育を担う教員を目指す強い意志と情熱を持ち、特別支援教育への関心と意欲を有する人
2. 自ら学ぼうとする学習意欲があり、高等学校までの教科（例えば国語・数学・外国語等）の基礎的知識・技術を活用して問題を解決できる能力を持つ人
3. 子どもの教育と社会的活動に幅広い興味と関心を有する人
4. 必要なコミュニケーション能力と協調性を備えている人
5. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を有する人

◆入学者選抜の基本方針

特別支援教育教員養成課程では、大学入学までに身につけておくことが期待される資質・能力として、子どもの教育に対する幅広い関心と情熱、論理的思考力、コミュニケーション能力を重視します。また、以上の学生を選抜するための基本方針として、多様な学生を評価できる入試を提供します。（詳細は、入学者選抜要項、学生募集要項を参照）

- ・一般選抜では、大学入学共通テストを課すとともに、個別学力検査等で各課程・専攻に応じて、国語、数学、外国語、実技、面接等のうちから必要な科目を課し、高等学校までの教科の基礎的知識・技能と、論理的思考力・判断力・表現力等及び教職（特別支援教育）への意欲を主体として、評価・選抜を行います。なお、面接においては、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度についても評価します。
- ・学校推薦型選抜Ⅱでは、大学入学共通テストを課し、高等学校までの教科の基礎的知識・技能を評価するとともに、調査書や推薦書等を参考にしながら、課程の特性を踏まえた面接を実施し、論理的思考力・判断力・表現力等及び教職（特別支援教育）への意欲を主体として、評価・選抜を行います。なお、面接においては、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度についても評価します。

卒業認定・学位授与の方針 DP (ディプロマ・ポリシー)

◆人材育成の目的・学位授与の方針

教育学部は、学士課程教育において、「広い視野と深い教養をもった豊かな人間性を基盤とした教員及び教育関係職員の養成のため、必要な基礎的・専門的な知識・技術を修得させ、併せて主体的な課題探究能力を育成する」ことを目的としています。

養護教諭養成課程では、広い視野、深い教養と思いやりの心をもった豊かな人間性を基盤とした養護教諭の養成のため、健康相談活動を含む健康管理、健康教育に必要な知識・技術を学ぶ専門科目、及び発展途上にある子どもたちを専門的立場から理解し、教育方法等の理論と技術を修得する教職専門科目により、子どもと教育に対する幅広い関心を持ち、論理的思考力を身につけた高度の教育実践力、子どもの心身の健康課題への対応力を備えた養護教諭の養成を目標としています。

このことを踏まえ、以下に示す学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、教養教育では幅広い分野の知識、各課程・専攻では分野の特性に応じた知識・能力を身に付けるとともに、所定の単位を修得し、以下の資質・能力を身につけた者に、学士の学位を授与します。

1. 発達途上にある子どもたちの体と心の問題に対して、専門的な立場から理解し、実践的に対応・指導できる。
2. 健康管理、健康教育、健康相談活動に関する専門的知識を身につけ、課題を分析し、解決するために活用できる。
3. 子どもたちの体と心の諸問題を広い視野で多面的に捉え問題を解決することができる。
4. 学校内外の人たちと、協働しながら解決していくためのコミュニケーションができる。

学修成果

豊かな教養

- ・健康管理・健康教育の推進に必要な人文科学・社会科学、自然科学・生命科学に対する一般的な知識と理解を持っている。
- ・健康管理・健康教育の推進に必要な知を高めていく主体的な学修態度が備わっている。

確かな専門性

- ・子どもの心身の健康課題に取り組むための健康管理・健康教育に関連した、幅広い看護、医学、公衆衛生、保健、健康相談等の基本的知識と技術を身に付けている。
- ・保健科教員としての力量も有し、学校現場において児童生徒の心身の健康教育を行う中心的役割を果たす能力を備えている。
- ・養護学の前提・基礎となる基本知識・技能を身につけている。
- ・養護学の最新動向についても把握している。
- ・養護学の前提となる基本的理論・概念及び、その研究方法についても理解している。
- ・養護学の中の保健教育に関する最新情報・データを分析し、課題設定と解決法を見出すことができる。
- ・健康相談活動・保健指導・看護の実際を学び、研究的視点・分析・解決の方向性を説明することができる。
- ・学内外の実習及び臨地での体験を通して、応用や問題解決の技能を身につけている。

創造的な知性

- ・文献の読解力を身につけ、その要点をつかめる。
- ・分析結果に基づいた論理的考察、概念化能力を身につけている。
- ・情報収集・分析方法を学習し、研究課題設定・解決能力を身につけ、発表・討議により考えを深めることができる。

社会的な実践力

- ・ 研究グループの中で討論し、分かりやすい発表を行うことができる。
- ・ グループ内討議・発表を行うことができる。
- ・ ロールプレイ、グループ活動、ディスカッション、シェアリング、プレゼンテーションなどの方法を取り入れることができ、それを通じてチームワーク、対人関係・コミュニケーション能力、倫理観を身につけている。
- ・ 児童生徒への対応能力を身につけている。
- ・ 衛生・公衆衛生教育を通し、市民性・公共心、社会参加意欲を身につけている。
- ・ 施設・病院・学校等の臨地における実習を通し、養護教諭としての実践的能力を身につけている。

グローバルな視野

- ・ 英語の文献を読解し、研究に活用するとともに英語の活用能力を高め、国際的な健康に関する課題、価値観や文化を理解し、国際的な視野の中で考察する力を身につけている。

情報通信技術の活用力

- ・ 研究の分析結果及び発表のプレゼンテーション作成を通じて、社会生活に求められる情報通信技術を十分に活用することができる。そのために必要な知識・技能・倫理を身につけている。

汎用的な知力

- ・ 卒業研究をまとめ論文化していく過程において、文章表現の技能や数的処理能力を身につけている。
- ・ 国内海外問わず様々な文献を精読することができる。
- ・ 調査研究等において、高度なデータの集計や処理の方法について理解している。
- ・ 専門分野だけでなく社会生活の基盤としてこれらの知力を身につけている。

教育課程編成・実施の方針 CP（カリキュラム・ポリシー）

①教育課程編成の方針

1. 養護教諭に求められる資質能力を高めるために、必要な知識・技術を学ぶ専門科目、及び発達途上にある子どもたちを専門的立場から理解し、教育方法等の理論と技術を修得する教職専門科目等から総合的に学修することができる。
2. 保健管理、保健教育、健康相談活動、保健室経営、保健組織活動に当たる養護教諭に必要な専門的内容について体系的、段階的、個別的にバランスよく学修することができる。

②教育課程における教育・学習方法に関する方針

教育課程においては、各科目の目的及び学修目標に応じ、講義・演習・実習等の様々な方法・形態により授業を実施し、学生が主体的・能動的に学び、人材育成の目的及び学位授与の方針に相応しい資質・能力を身につけることができるよう工夫します。

③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA 及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の評価は、各科目の目的及び学修目標を踏まえ、科目毎にシラバスに示す評価方法・基準により、筆記試験、レポート、講義・演習・実習等への積極的な参加等により行うものとし、公正かつ確に実施します。

入学者受入れの方針 AP（アドミッション・ポリシー）

◆求める学生像

養護教諭養成課程は、人材育成の目的及び学位授与の方針を踏まえ、次のような人を広く求めます。

1. 養護教諭を目指す強い意志と情熱を持ち、子どもの心身の発達、健康課題、健康管理、健康教育に関心を有する人
2. 自ら学ぼうとする学習意欲があり、高等学校までの教科（例えば国語・数学・外国語等）の基礎的知識・技能を活用して問題を解決できる能力を持つ人
3. 子どもの教育と社会的活動に幅広い興味と関心を有する人
4. 必要なコミュニケーション能力と協調性を備えている人
5. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を有する人

◆入学者選抜の基本方針

養護教諭養成課程では、大学入学までに身につけておくことが期待される資質・能力として、心身の健康教育を中心とする子どもの教育に対する幅広い関心と情熱、論理的思考力、コミュニケーション能力を重視しています。また、以上の学生を選抜するための基本方針として、多様な学生を評価できる入試を提供します。（詳細は、入学者選抜要項、学生募集要項を参照）

- ・一般選抜では、大学入学共通テストを課すとともに、個別学力検査等で各課程・専攻に応じて、国語、数学、外国語、実技、面接等のうちから必要な科目を課し、高等学校までの教科の基礎的知識・技能と、論理的思考力・判断力・表現力等及び教職（養護教育）への意欲を主体として、評価・選抜を行います。なお、面接においては、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度についても評価します。
- ・学校推薦型選抜Ⅱでは、大学入学共通テストを課し、高等学校までの教科の基礎的知識・技能を評価するとともに、調査書や推薦書等を参考にしながら、課程の特性を踏まえた面接を実施し、論理的思考力・判断力・表現力等及び教職（養護教育）への意欲を主体として、評価・選抜を行います。なお、面接においては、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度についても評価します。